

温泉分析書

道 道 検 温 第 586 号									
1 申請者 札幌市南区定山溪温泉西3丁目32番地 株式会社 ホテル鹿の湯 代表取締役 金川 一男									
2 源泉名および 湧出地 定山溪温泉（源泉名 ホテル鹿の湯5号・33号温泉） 北海道札幌市南区定山溪温泉西3丁目32番地									
3 湧出地における調査および試験成績									
(イ) 調査および試験者： 財団法人 北海道薬剤師会公衆衛生検査センター 阿部 運 儀									
(ロ) 調査および試験年月日： 平成 15 年 9 月 19 日									
(ハ) 源泉 温(表水) 60.8℃ (気温：16.3℃) (ニ) 湧出量： 蒸 t/min(動力揚水)									
(ホ) 知覚的試験 僅かに黄色 澄明 ほとんど無味 無臭									
(ヘ) pH 値 7.0 (ト) ラドン (Rn)：									
4 試験室における試験成績									
(イ) 試 験 者： 財団法人 北海道薬剤師会公衆衛生検査センター 吉田 博 文									
(ロ) 分析終了の年月日 平成 15 年 9 月 26 日									
(ハ) 知覚的試験 僅かに黄色 澄明 ほとんど無味 無臭 (採水後6時間)									
(ニ) 密 度 1.0005 (20°/4℃)									
(ホ) pH 値 7.10									
(ヘ) 蒸発残留物 3.180 g/kg (130℃)									
5 試料 1 kg 中の成分：分量および組成									
(イ) 陽イオン		ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)	ミリモル当 (mmol%)	(ロ) 陰イオン		ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)	ミリモル当 (mmol%)
水素イオン	H ⁺				フッ素イオン	F ⁻	1.4	0.07	0.74
ナトリウムイオン	Na ⁺	867.5	37.73	78.77	塩素イオン	Cl ⁻	1555.	43.86	88.09
カリウムイオン	K ⁺	155.2	3.97	8.29	水酸イオン	OH ⁻			
アンモニウムイオン	NH ₄ ⁺	0.1	0.00	0.00	硫化水素イオン	HS ⁻	-	-	-
マグネシウムイオン	Mg ²⁺	8.5	0.70	1.46	チオ硫酸イオン	S ₂ O ₃ ²⁻	-	-	-
カルシウムイオン	Ca ²⁺	109.5	5.46	11.40	リン酸イオン	HPO ₄ ²⁻	3.7	0.08	0.16
アルミニウムイオン	Al ³⁺	-	-	-	硫酸イオン	SO ₄ ²⁻	38.4	0.80	1.61
マンガンイオン	Mn ²⁺	1.0	0.04	0.08	炭酸水素イオン	HCO ₃ ⁻	303.7	4.98	10.00
第一鉄イオン	Fe ³⁺	-	-	-	炭酸イオン	CO ₃ ²⁻	0.2	0.00	0.00
第二鉄イオン	Fe ²⁺	-	-	-					
計		1142.	47.90	100.	計		1902.	49.79	100.
イ) 遊離成分									
非解離成分		ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)	非解離成分		ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)		
メタ珪酸	H ₂ SiO ₃	153.5	1.97	メタ亜ヒ酸	H ₂ AsO ₃	4.7	0.04		
メタ硼酸	HBO ₃	179.8	3.90						
計		329.0	5.91						
溶存物質(ガス性のものを除く) 3.373 g/kg									
溶存ガス成分		ミリグラム (mg)	ミリモル (mmol)						
遊離二酸化炭素	CO ₂	44.2	1.00						
遊離硫化水素	H ₂ S	0.0	0.00						
計		44.2	1.00						
成分総計 3.417 g/kg									
(ニ) その他微量成分		銅イオン：0.002mg/l 亜鉛イオン：0.007mg/l アルミニウム、カドミウム、鉛及び総水銀 検出せず。							
6 泉 質：ナトリウム-塩化物泉 (低張性中性高温泉)									
7 禁忌症、適応症：「温泉分析書別表」中5に記載する。									
平成 15 年 9 月 26 日 登録分析機関 登録番号 北海道第2号									

禁忌症・適応症

療養泉分類の泉質に基ずく禁忌症・適応症等は次のとおりです。

1. 禁忌症 (浴用)

急性疾患 (特に熱のある場合)、活動性の結核、悪性腫瘍、重い心臓病、呼吸不全、腎不全、出血性疾患、高度の貧血、その他一般に病勢進行中の疾患、妊娠中 (特に初期と末期)。

2. 適応症 (浴用)

神経痛、筋肉痛、関節痛、五十肩、運動麻痺、関節のこわばり、うちみ、くじき、慢性消化器病、痔疾、冷え症、病後回復期、疲労回復、健康増進きりきず、やけど、慢性皮膚病、虚弱児童、慢性婦人病。

3. 入浴の方法及び注意

- (1) 熱い温泉に急に入ると、めまい等を起こすことがあるので充分注意すること。
- (2) 入浴時間は入浴温度により異なるが、始めは3分ないし10分位としなれるにしたがって延長してもよい。
- (3) 入浴中は運動浴の場合は別として、一般には安静を守ること。
- (4) 入浴後は湯冷めに注意して一定時間の安静を守ること。
- (5) 高度の動脈硬化症、高血圧症及び心臓病の患者は原則として、高温浴 (42℃以上) を禁忌とする。
- (6) 入浴後は身体に付着した温泉成分を水で洗い流さないのがよい。但し「湯ただれ」を起こし易い人は逆に浴後真水で身体を洗うか、温泉成分をふき取るのがよい。
- (7) 食事の直前、直後の入浴は避けることが望ましい。
- (8) 飲酒しての入浴は特に注意すること。

◎ 温泉療養に際しては、医師の指導を受けることが望ましい。

4. 飲用 この温泉水は飲用しないで下さい。
5. 適応症・禁忌症決定年月日 平成 15 年 9 月 30 日
6. 決定者 北海道保健福祉部長

温泉の温度 42℃
施設名 ホテル鹿の湯 新館『花もみじ』

設北海道薬剤師会公衆衛生検査セン

